

評価(C) ↓ 改善(A)

令和5年度

評価(C) 目標等を踏まえた改善方針(案)

(エ) 成年後見制度利用支援事業・成年後見制度法人後見支援事業	
成年後見制度利用支援事業	概ね見込み値どおりであり、一定の成果を得ていると考えます。引き続き、制度の分かりやすい周知に努め、成年後見制度利用支援を行います。
成年後見制度法人後見支援事業	見込みどおり実施し、一定の成果を得ていると考えます。引き続き、市民後見人を養成していくよう努めます。
(オ) 意思疎通支援事業	
手話通訳者派遣事業	当初の見込みを下回ってはいるものの、派遣数は2,500件を超えており、今後も高いニーズがあると考えられます。引き続き、利用者への適切な派遣を実施し、コミュニケーション支援を図るよう努めます。
要約筆記者派遣事業	当初の見込みを下回ったものの、利用希望者に対して適切に派遣を行いました。今後も高いニーズがあると考えられるため、引き続き、聴覚障害のある人が社会参加できるよう、適切な派遣を実施するよう努めます。
重度障害者入院時コミュニケーション支援事業	H30年度の法改正により、障害福祉サービス（重度訪問介護）で入院時のコミュニケーション支援が可能となったため、R2年度に引き続きR3年度からR5年度も本事業での利用はなかったと考えられます。しかし、今後も対象の方が入院した場合には必要な事業と思われるため、事案発生時には速やかに支援ができるよう努めます。
盲ろう者通訳・ガイドヘルパー派遣事業	当初の見込みを上回っており、昨年度と比較しても増加傾向にあるため、今後も高いニーズがあると考えられます。引き続き、利用者のニーズを把握し、適切な派遣を実施するよう努めます。
(カ) 日常生活用具給付等事業	
介護・訓練支援用具	ほぼ見込みどおりに達成しており、事業は順調に推移していると評価しました。過去の給付実績、市場価格、他都市の給付状況等を調査し、今後も適切な事業運営の維持に努めます。
自立生活支援用具	
在宅療養等支援用具	
情報・意思疎通支援用具	
排泄管理支援用具	
居宅生活活動補助用具 (住宅改修費)	
手話奉仕員養成研修事業	
(キ) 奉仕員養成研修事業	
手話奉仕員養成事業	

評価(C) ↓ 改善(A)

令和5年度

評価(C) 目標等を踏まえた評価、改善方策(案)】

手話通訳者養成事業	概ね見込みどおりであり、一定の成果を得ていると考えられます。派遣件数などからも、高いニーズがあると考えられます。見込みを下回っている事業を中心に周知を図り、受講者の拡大に向け取り組みます。
要約筆記者養成事業	
盲ろう者通訳・ガイドヘルパー養成事業	
(ク) 移動支援事業	
移動支援事業	見込みと比較すると、利用者数及び利用時間は下回るものの、前年と比較すると利用者数及び時間数も増加していることから利用希望者に対して適切にサービスを提供できていると考えます。引き続き、障害のある人、障害のある子どもの社会参加のための外出を支援していきます。
重度障害者大学等進学支援事業	当初の見込みを下回ってはいるものの、利用希望者に対して適切にサービスを提供できていると考えます。引き続き、利用者に適切な派遣を実施し、大学等修学における支援を図るよう努めます。
(ケ) 地域活動支援センター機能強化事業	
地域活動支援センター事業	引き続き、障害者に創作的活動などの機会の提供、社会との交流の促進を実施する地域活動支援センターに助成等を行っていきます。
(コ) 広域的な支援事業	
精神障害者地域生活支援広域調整等事業	引き続きピアサポーターの養成と活用を継続し、精神障害のある人の地域移行に向けた取り組みを進めます。また、ピアサポーターの活用場の拡大に向けた普及に努めます。
任意事業	
(ア) 日中生活支援事業	
福祉ホーム	引き続き、障害のある人が福祉ホームにおいて低額な料金を、居室その他の設備を利用でき、日常生活に必要な便宜を受けることができるように運営経費の補助を行うことにより、地域生活を支援します。
生活訓練等・中途視覚障害者緊急生活訓練	見込みを40%以上、上回った。要因は、申請者数の増加。事業は順調に推移していると考えます。引き続き訓練希望者や相談者のニーズを十分に理解し、個々の状況に応じた訓練等を行っていきます。
訪問入浴サービス	当初の見込みを下回ってはいるものの、利用希望者に対して適切にサービスを提供できていると考えます。引き続き、障害のある人、障害のある子どもの日常生活を支援していきます。
日中一時支援事業(日帰りショートステイ)	見込みと比較すると利用者数・利用回数は達成しています。特に利用回数については、前年と比較すると大幅に増加していることから利用希望者に対して適切にサービスを提供できていると考えます。引き続き、障害のある人、障害のある子どもの日常生活を支援していきます。
(イ) 社会参加支援事業	
障害者スポーツ大会	北九州市障害者スポーツ大会については、昨年より大きく参加者数が増加し、247人の参加がありました。スポーツを通じた社会参加を促進するため、参加者の拡大を図ります。スポーツ大会の開催については、コロナ禍以前の参加者数まで増やすためにも関係団体と連携を図り、広くPRする必要があります。
障害者スポーツ教室	障害者スポーツ教室の箇所数については、目標を上回ることは出来ませんが、昨年度よりも増加させることが出来ました。スポーツを通じた社会参加を促進するため、巡回スポーツ教室などの実施箇所数の拡大を図ります。スポーツ教室の開催については、より参加者のニーズに合ったものとする必要があります。

評価 (C) ↓ 改善 (A)	令和 5 年度	評価 (C) 目標を踏まえた【目標を踏まえたまま評価、改善方策 (案)】	点字・声の広報等 発行事業	広報物の発行回数の減少に伴い、点字・声の広報物に関しても発行回数が減少しましたが、必要に応じ点字版及び音声版を作成しました。今後も視覚に障害のある人の社会参加を図るため、情報保障に努めます。
			点訳奉仕員養成事業	当初の見込みを下回ったものの、近い実績を達成しました。今後もコミュニケーション支援を増強するために、事業の周知を図り、受講者の拡大に向けた取り組みが必要です。
			朗読奉仕員養成事業	
			パソコンサポーター 養成・派遣事業	養成人数は当初の見込みを上回りました。また派遣に対しても高いニーズが見込まれることから、養成事業を周知し、受講者の拡大に向けた取り組みを実施します。
			芸術文化活動振興	順調なサービス利用が行われています。 北九州市障害者芸術祭の作品出展数については、昨年度を大きく上回る268点の応募がありました。文化芸術活動を通じた社会参加を促進するため、更なる出展数の拡大を図ります。 障害者芸術祭の開催については、関係団体と連携を図り、広くPRする必要があります。